

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「税の価値と、その表裏」

国立市立国立第二中学校 3年 藤澤 瞭

はたして、私達中学生は、いつも使うあの木製の机と椅子が、私達が払っている消費税等によって準備されていることを知っているだろうか。人は当たり前のようにものを使っていると、その価値を忘れてしまうというのはよく言うことだ。調べてみると、机と椅子セットで2万はくだらないという。私の中学の在校生は五百人程度だが、それぞれのクラスに常備されているのも含め、特別教室にあるものも数えると、千万以上はかかる。それが全国規模となると、想像もつかない。この例からわかるように、私達の生活は税によって様々な面で支えられている。教育を始め、交通機関や福祉施設、医療機関など、税金なしでは機能しないだろう。しかし、今年度の国の歳出予算に関するグラフを見てみると、教育や科学技術の発展に使われる予定の税金が約五兆なのに対し、防衛関係費は二〇一二年からずっと増加している。調べてみると、弾薬の取得に約八千億円が費やされているらしい。

能登半島地震、政府は四千百億円の支援金を予算の予備費から支給した。この支援金によって救われた人がいる裏腹に、弾薬の値段を見ると嫌な気分になる人もいるかもしれない。もちろん今の時代、政府は「国を守るのに武器は必要」と思われるだろう。でも、国民からすると「人の命を奪えるものを、自分たちの税金で購入されるのはいやだ。」と考える人もいるだろう。ではどうすればいいのか。

私の住む近くに、三方向を道路に囲まれた小さな公園がある。私としてはボール遊びができる公園で、大半の人もそれが目当てだった。しかし、その公園に「ボール遊び禁止」の看板が立った。おそらく誰かが車にボールをぶつけたのだろう。それからというもの、その公園には前より人が来なくなった。いるとすれば椅子でゲームをする子供だ。このような状態で、この公園の存在意義はあるのだろうか。ボールが車に当たる危険があるなら税金を使って柵をもっと高くすればいいではないか。中学生の私からするとそう考えてしまう。しかし、私が市の職員になったつもりで考えてみると、こんな小さな公園に貴重な財源を割くよりももっと他の福祉事業に使った方が良くとも思う。

ここまでのことを考えると、私達が税金を払うかや国が使い道をどうするかについても同じことが言えないだろうか。自分ならこうしてほしいという気持ちを持ち、それぞれが客観的な視線に立つことによって、もし国民である自分が政府の立場だったら、この税をどれだけ払ってほしいか。もし政府側の自分が一国民の立場だったら、この法案を開いて納得するだろうかと考えることにより、私達の未来は、武器やデモでも勝ち取ることでできないものとなるのではないかと私は考える。